

かいたく
開拓のくろう

出身地	移住戸数
く る め 久留米	156戸
まつ やま 松 山	17戸
こう ち 高 知	106戸
おか やま 岡 山	10戸
とっ とり 鳥 取	71戸
に ほんまつ 二本松	58戸
あい づ 会 津	23戸
たな ぐら 棚 倉	25戸
よね ざわ 米 沢	10戸

全国から郡山にうつり住んだ人々は、出身地ごとに「開墾社^{かいこんしゃ}」をつくり、力を合わせて新しい土地である郡山になれ、豊かな町をつくろうとがんばりました。

しかし、^あ荒れた土地をたがやして田畑をつくっても、3年から5年はほとんど作物はとれませんでした。やせた土地に^{ひりょう}まく肥料のお金もたいへんでした。またうつり住んできた人々の多くは、もともとは武士だったので、田畑の仕事は近くの村の人にたのむことも多く、それらの人にはらうお金もたくさん必要でした。



おじいさん

全国各地から郡山にうつり住んできた人々の生活はとてもきびしく、住む家はとてもそまつで冬の朝、ふとんの上に雪がつもっていたということもありました。子どもたちが学校にもっていくお弁当の中身は、じゃがいもや大根ばかりでした。田畑への水だけでなく、のみ水にも不自由し、おけをかついで遠くまで水くみにいかなければなりませんでした。みんなのねがいは、水を自由につかいたいということでした。